

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000408	
法人名	有限会社 福祉総合ケアハウス	
事業所名	グループホームおおたの郷	
所在地	杵築市大田石丸1392番地	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000408&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた	
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号	
訪問調査日	令和2年11月17日	

【しらひげユニット】

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域で行われる行事(各お祭等)の時期には地元の方々から誘いを受けて出掛ける事や、地元のこども園、小学校の子供たちと交流を持っている。毎年恒例の供養盆踊りには地域の方々が多く参加され、当ホームを理解し受け入れていただける環境ができてきた(今年は新型コロナウイルス感染防止のため中止している)また、行方不明者捜索の協力で快く賛同してもらい協力体制に加わっている。
 ○ホーム周辺にある畑・花壇を活用し、日々の生活の中で花や野菜作りを通じて栽培や収穫の喜びを感じて頂ける環境が整っている。
 ○火災や風水害対策として、地元消防団と連携をとり緊急時の連絡が即座に行えるよう協力体制を図っている。(※自動火災通報装置連絡網に16名の地元消防団員宅を登録)
 ○新型コロナウイルス感染防止の取り組みとして、感染症マニュアルを作成し予防と対策を行っている。また、面会はリモート面会ができるよう設備を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自然に恵まれた立地条件や近隣に小学校や保育園のある環境が、日常の外気浴や散歩、子供たちとの交流に生かされ、利用者の楽しみや喜びにつながっている。
 ・職員のアイデアや工夫が、抑圧感のない環境づくりや安全な生活支援、困難事例の解決に生かされている。
 ・利用者の出来る事を生活リハビリとして生かし、身体機能の改善や活躍の場面づくりが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度毎に見直しを行い、地域密着型の意義・役割をふまえて職員全員で話し合い、理念を玄関・事務所に掲げ、朝礼で職員全員で唱和して理念の意義・理解を共有しケアや取り組みに活かしている。	今年度、理念の中で「情報の共有」について再確認を行っている。理念の根本は自立支援となっており、利用者の心身の状況に合わせた「出来る事」を日常生活活動の中に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナ感染症で地域の方との交流は控えているが、例年、近くのこども園児との交流も随時行ったり小学校の運動会やマラソン大会の応援に参加している。恒例の供養盆踊りも近隣の方々が大勢参加され良い交流の場となっている。	例年交流のある子供たちから、行事で収穫された芋の差し入れを受けている。コロナ禍での介護の相談を受け、介護保険制度や施設入居について情報の提供やアドバイスを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページに、介護相談窓口の掲載を行い、近隣における認知症介護で悩んでいる方々の相談やアドバイスを行っている。積極的に各種団体への研修や講習等の開催や実践を通じた情報発信も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域駐在署員、地域民生委員、近隣地域の方々、家族、施設管理者等の参加で行っている。会議での要望や意見はケアサービスの取組に活かしたり、議事録は施設内で回覧し職員全体で周知している。	市の担当者を通じ、大分県にコロナ禍での運営推進会議の対応について確認している。今年度は、助言に沿って、会議の委員に資料を送付し意見を聞き、議事録としてまとめている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議や各連絡等により、介護保険に関する適正な運営指導及び事業所の現状や取り組み等を報告相談している。その甲斐もあり、担当者それぞれの積極的な協力や支援がある。	今年度は、コロナ感染予防マニュアルのアドバイスや衛生材料の支援、様々な助成金についての助言を受けている。助成など多くの情報が錯乱する中、正確な情報の提供や相談支援が、運営に生かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、身体拘束の有無及び具体的な行為等を話し合っている。一時的にどうしても必要な場合は、家族及び医師等に相談し、毎週毎月の検討や対策の話し合いを持ち適切な対応を行っている。	年2回施設内研修が行われている。職員間での話し合いや見守り、様々なアイデアによって利用者の安全な生活支援や抑圧感のない生活支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し日頃の業務に於ける虐待や虐待に結びつきそうな対応等を、チェックリスト・マニュアルを通じて確認や啓発を行なっている。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて、自立支援や後見人制度について話し合っている。後見人制度については、最近施設内で対応した経緯もあり、実践を通じて理解がなされている。制度を十分理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分な時間をかけ、事例等を踏まえ確認を行いながら分かり易く説明している。解約の際は、受け入れ先と相談し、家族が納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見要望書を送付したり、家族会・運営会議等で要望を表せる機会を設けている。玄関には苦情等の要望書を設置、何時でも言い出せる環境を整え、意見等があれば各会議で話し合い運営に反映させている。	家族には、利用者の状況や病状など、度々電話連絡を行っている。毎月、写真とともに利用者の日常の様子を知らせる便りを送付している。ケアプラン作成時には、意見要望書を送り、家族の思いや意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、全体会議やカンファレンス・担当者会議で、職員それぞれの意見や要望を聞く機会を設け運営に反映させている。	毎月、ユニット合同の職員会議と各ユニット毎の会議が開かれ、日常業務や利用者支援についての話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議やミーティングで、要望や意見・職員間の人間関係等を把握し改善に努めている。勤務希望に添えるよう対応して、処遇改善加算やキャリアパス等を積極的に活用し処遇向上及び資格取得の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、経験年数や各職員に適した研修の受講を図っている。毎月開催されている地域連携会議や各研修にもできる限り参加を促し、技術向上に向けた取り組みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での同業者協議会を立ち上げ年数回実施、困難事例や近況の取り組み等の意見交換を行なっている。職員による他施設研修も年間を通じて行っており、より良い施設間交流が成されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、家族、支援事業所の担当者などの関係者により、入居するに至った経緯、生活歴を把握すると共に、本人と面接を行うことで心身の状態や本人の思いに向き合い、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接及び契約時に家族の意見、希望を詳細に聞きサービスに活かしている。利用途中も要望書を送付し、家族の求めているものを理解し不安を取り除き安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、本人・家族との話を十分に行い、本人・家族の希望、施設で行ってもらいたい事等を話し合う。また、他のサービスが望まなければ情報を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持ち、ともに暮らす者同士として、本人のできること、思いを把握しお互いが協働しながら穏やかな生活が送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は新型コロナ感染流行で面会制限をしているが日常生活での様子や出来事等の写真を家族に送ったり、電話にて詳細に伝えている。例年、施設行事等にも参加を促し家族との交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は新型コロナ感染流行のため家族や友人、近所の方の面会や外出、外泊を制限しているが、リモート面会ができるよう設備を整えている。また、ビニールシート越しの短時間面会も実施している。例年は地域行事にもできるだけ参加できるよう努めている。	昨年、家族が遠方に住む利用者が終末期を迎え、懇意にしていた親友が頻繁に利用者の元を訪れ、共に過ごした時間や思い出を語り合う場面づくりを行い、穏やかな終末期支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態を知り、気の合う利用者同士での役割作りや活動を提供している。利用者には不安や戸惑いを与えないように席替えは最小限にしている。気の合う利用者同士が楽しく過ごせるように支援している。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談はいつでも受けられるようにしている。退所時には必要な情報を提供し、今後の連絡や話し合いを行い、細かな連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いを知り、ケアに取り組んでいる。意思疎通の難しい方は表情などから気持ちを汲み取っている。	入居時、管理者が家族や関係者から利用者の生活歴や入居前の生活状況を聞き取り、思いや意向の把握にも努めている。得られた情報は、詳細に記録され、職員間での共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者の方からこれまでの情報を聞き、アセスメントシートを作り、職員への情報提供をしている。生活の中で本人との交流を図りながら思いを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のできる事を日々、行ってもらっている。状態に合わせて活動量を調整したり、休憩を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり本人・家族の要望をできる限り反映できるよう職員で意見交換やモニタリング、アセスメントを行っている。状態が変化した場合は見直しを行い、今の本人に最も必要な介護計画を作成している。	介護計画作成時、家族に意見書を送付し、介護計画に反映させている。ケアチェック表に、具体的な介護支援が記載されており、実践状況を毎日確認し、モニタリングを3か月に1度行い、6か月に1度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、日々の様子や状態を気づきノート、ケース記録に記録している。新しい情報も職員全員が把握できるよう情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じて、施設での通院の送迎、介助を行っている。本人と一緒に買い物に行ったり、近隣の美容院・理髪店の協力を得て、訪問理容を利用している。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容の活用、地元保育園児との交流、盆踊りに参加してもらっている。広報誌を地域関係者に配布し緊急時の協力を得られるようにしている。運営推進会議では民生委員・警察・市役所の職員等、参加していただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に本人・家族と希望のかかりつけ医を決め、入所後は施設の職員が協力して通院や緊急時の対応を行っている。状態に応じて協力病院でも治療を受けられるよう連携を図っている。	希望するかかりつけ医となっている。定期受診は職員が同行し、介護度4・5の利用者は訪問診療を受けている。協力医との連携が図られており、健康管理や心身の状況に合わせた減薬や処方対応が行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の日頃の状態や変化を観察し看護職員に伝えている。急変時の対応、家族やかかりつけ医との連絡を速やかに行い、適切な支援行えるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう情報を病院へ提供している。介護者が頻回に面会に行き、医師や看護師等から情報を聞いている。退院時カンファレンスに参加し、退院の準備や退院後の留意点、リハビリ等の相談をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期のケアについて当施設で対応できる内容について家族に説明を行っている。看取りマニュアルを作成し、家族・かかりつけ医と連絡を取りながら安心して納得した最期を迎えられるよう対応している。	利用者・家族の要望を受け、協力医や訪問看護と連携を図りながら重度化・終末期の支援を行っている。管理者が看取り支援の外部研修に行き、伝達研修を行い、職員間で終末期介護の共通理解に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。職員の全員が救急救命の講習を受けており、急変時の対応ができるようにしている。AEDや吸引器等も整備している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年2回、火災避難訓練、消火訓練を実施している。風水害の避難訓練も年1回実施している。近隣の消防団の協力も得ている。緊急連絡網の作成や非常食、飲み物の備蓄も行っている。	年2回火災想定での避難訓練が行われている。避難場所は、隣接する有料老人ホームになっており、避難誘導時の介助や誘導方法を事前に検討することで、全利用者が安全に避難実働訓練に参加している。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝のミーティング、全体会議、高齢者虐待防止委員会の会議等で話し合い、利用者のプライバシーを守る対応を徹底している。不適切なケアと思われる時は職員同士で注意合っている。必要に応じて、情報の開示を行っている。	不適切ケアについての会議が開かれており、職員に周知徹底が図られている。排泄支援の際、見守り時のプライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との話の中で好きな物、昔行っていたことを聞き、役割や活動に取り入れるようにしている。物事を行う時は、必ず利用者に説明を行い目的を知ってもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気づきノートの活用や申し送りを聞いて、その日の利用者の状態を知り体調や気持ちを考えながらその人のペースで生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは職員が本人の要望を聞きながら一緒に選び、本人が納得したものを着てもらっている。自分で選ぶことが困難な方には好みを思い出しながら職員が提供している。理美容は近くの馴染みのお店にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで採れた季節の野菜を利用して、利用者にはできる範囲で食事作りの協力してもらっている。おやつ作りも利用者と一緒に作ることで楽しさを持ってもらうようにしている。食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなどもしていただいている。	事業所の畑で採れた野菜や差し入れ食材を活用し、朝食と3食の汁物やおやつが作られている。どぶろく祭りで振舞われた酒を酒まんじゅうにアレンジするなど、アイデアが生かされた食事作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態にあった食事の提供(キザミ、トロミ等)を行っている。水分摂取が苦手な方にはお茶ゼリーを提供している。料理によっては本人の希望を聞き対応している。食事量、水分量を記録して職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に歯磨きを促し見守りや介助を行っている。口腔内の状態を観察し、その方に合った歯ブラシや歯磨き剤を使用している。夕食後の歯磨きの後、義歯が使われている方は、外してもらい洗浄を行っている。口腔ケア等の研修に積極的に参加している。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の日頃の排泄パターンや動作を排泄チェック表をもとに把握しトイレ誘導をしている。毎食後、時間での誘導を行っている。排泄中の見守りの際はバスタオル等で前を隠すなどプライバシーに配慮している。	座位の保持が可能な利用者は、トイレでの排泄を基本としている。尿意や便意がなくとも時間を見て、声掛け誘導支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維質の多い食材の提供をしている。便秘傾向の方には発酵食品やオリゴ糖を提供している。腹部マッサージや廊下歩行、散歩等の運動も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる準備をしている。希望の時間により入られる方もいる。体調や状態によっては清拭、足浴を行っている。	入浴拒否が強い利用者も、無理強いすることなく、職員でアイデアを出し合い、声掛けの工夫をしたり、好きな曲を掛けることで、穏やかに入浴を楽しむようになった事例がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターン、希望に配慮した支援を行っている。昼間の活動を増やし日中の居眠り、夜間の不眠の防止に心がけている。年齢や体調に配慮して午後の昼寝の時間も取り入れている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をケース記録に整理し職員が、薬の目的や副作用を把握できるようにしている。服薬時は手渡す・介助する等服薬の確認を行い、何かあればかかりつけ医、看護師と連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴、背景等の情報を知り、畑、食事作りやおやつ作り洗濯物を干したり、畳んだり等各自が役割の持てる支援を行っている。地域の行事にも参加するようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より施設はしていない。いつでも利用者の意思で出掛けられるようにしている。利用者の希望でいつでも散歩や野菜の収穫、行事での外出や買い物ドライブ等も行っている。	コロナ禍の中でも、立地環境を生かして、日常的な散歩や外気浴が行われている。春に花見、秋には両子寺の紅葉狩りに出かけ、季節を楽しむ集団での外出支援も行われている。		

グループホームおおたの郷(しらひげ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣やお祭り、ドライブに出かけた際、お賽銭、ジュース等希望された場合に本人にお金を手渡し、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で話したいと希望された場合、職員がかけてあげ、話ができるようにしている。利用者に届いた手紙を渡し読んでもらったり、手元に置いていつでも見られるようにしている。職員からは年賀状の交換を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横には大きなソファを置き、外を眺められたり、体操や談話が行われている。ウッドデッキにて外気浴をしたり、季節にあった絵や飾り付けを行っている。廊下の壁に毎月の様子の写真を貼り、利用者や面会者がいつでも見れるようにしている。	廊下には毎月の事業所行事の様子や利用者の写真が飾られ、訪問者や利用者・職員との話題作りには生かされている。共用空間の食卓上には、景色に溶け込んだ職員手作りのパーテーションが置かれ、利用者間のより良い距離を保つことに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エントランスやラウンジに椅子を置き、外が眺められ、学校の子供さんや畑を見て過ごすことのできるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が工作された物や家族や施設での写真を居室に貼り、職員と本人が共同で作った作品等を飾り、あたたかい雰囲気作りを心掛けている。	居室の寝台は、利用者の心身の状況や生活環境を考慮して、手すりにカバーを取り付けたり、木造タイプや可動式ベッド、個別に高さ調整されたマットのみにすることで、安全に居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、各所に手すりがあり歩行や移動、移乗動作が安全に出来るように配慮している。活動性を維持するために、個々に応じた歩行器などを使用し、安全性の確保と自立支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000408		
法人名	有限会社 福祉総合ケアハウス		
事業所名	グループホームおおたの郷		
所在地	杵築市大田石丸1392番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【しらかわユニット】

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域で行われる行事(各お祭等)の時期には地元の方々から誘いを受けて出掛ける事や、地元のこども園、小学校の子供たちと交流を持っている。毎年恒例の供養盆踊りには地域の方々が数多く参加され、当ホームを理解し受け入れていただける環境ができてきた(今年は新型コロナ感染防止のため中止している)また、行方不明者捜索の協力を快く賛同してもらい協力体制に加わっていただいている。
 ○ホーム周辺にある畑・花壇を活用し、日々の生活の中で花や野菜作りを通じて栽培や収穫の喜びを感じて頂ける環境が整っている。
 ○火災や風水害対策として、地元消防団と連携をとり緊急時の連絡が即座に行えるよう協力体制を図っている。(※自動火災通報装置連絡網に16名の地元消防団員宅を登録)
 ○新型コロナ感染防止の取り組みとして、感染症マニュアルを作成し予防と対策を行っている。また、面会はリモート面会ができるよう設備を整えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000408&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームおおたの郷 しらひげユニットに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度毎に見直しを行い、地域密着型の意義・役割をふまえて職員全員で話し合い、理念を玄関・事務所に掲げ、朝礼で職員全員で唱和して理念の意義・理解を共有しケアや取り組みに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひいな祭りの時期には地元の方から誘いを受け、近隣の家々に出掛けている。近くのことども園児との交流も随時行い、恒例の供養盆踊りも近隣の方々が大勢参加され、良い交流の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページに、介護相談窓口の掲載を行い、近隣における認知症介護で悩んでいる方々の相談やアドバイスを行っている。積極的に各種団体への研修や講習等の開催や実践を通じた情報発信も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域駐在署員、地域民生委員、近隣地域の方々、家族、施設管理者等の参加で行っている。会議での要望や意見はケアサービスの取組に活かしたり、議事録は施設内で回覧し職員全体で周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議や各連絡等により、介護保険に関する適正な運営指導及び事業所の現状や取り組み等を報告相談している。その甲斐もあり、担当者それぞれの積極的な協力や支援がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、身体拘束の有無及び具体的な行為等を話し合っている。一時的にどうしても必要な場合は、家族及び医師等に相談し、毎週毎月の検討や対策の話し合いを持ち適切な対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し日頃の業務に於ける虐待や虐待に結びつきそうな対応等を、チェックリスト・マニュアルを通じて確認や啓発を行なっている。		

グループホームおおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて、自立支援や後見人制度について話し合っている。後見人制度については、最近施設内で対応した経緯もあり、実践を通じて理解がなされている。制度を十分理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分な時間をかけ、事例等を踏まえ確認を行いながら分かり易く説明している。解約の際は、受け入れ先と相談し、家族が納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見要望書を送付したり、家族会・運営会議等で要望を表せる機会を設けている。玄関には苦情等の要望書を設置、何時でも言い出せる環境を整え、意見等があれば各会議で話し合い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、全体会議やカンファレンス・担当者会議で、職員それぞれの意見や要望を聞く機会を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議やミーティングで、要望や意見・職員間の人間関係等を把握し改善に努めている。勤務希望に添えるよう対応して、処遇改善加算やキャリアパス等を積極的に活用し処遇向上及び資格取得の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、経験年数や各職員に適した研修の受講を図っている。毎月開催されている地域連携会議や各研修にもできる限り参加を促し、技術向上に向けた取り組みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での同業者協議会を立ち上げ年数回実施、困難事例や近況の取り組み等の意見交換を行なっている。職員による他施設研修も年間を通じて行っており、より良い施設間交流が成されている。		

グループホームおおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、家族、支援事業所の担当者などの関係者により、入居するに至った経緯、生活歴を把握すると共に、本人と面接を行うことで心身の状態や本人の思いに向き合い、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接及び契約時に家族の意見、希望を詳細に聞きサービスに活かしている。利用途中も要望書を送付し、家族の求めているものを理解し不安を取り除き安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、本人・家族との話を十分に行い、本人・家族の希望、施設で行ってほしい事等を話し合う。また、他のサービスが望まなければ情報を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持ち、ともに暮らす者同士として、本人のできること、思いを把握しお互いが協働しながら穏やかな生活が送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は新型コロナ感染流行で面会制限をしているが日常生活での様子や出来事等の写真を家族に送ったり、電話にて詳細に伝えている。例年、施設行事等にも参加を促し家族との交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は新型コロナ感染流行のため家族や友人、近所の方の面会や外出、外泊を制限しているが、リモート面会ができるよう設備を整えている。また、ビニールシート越しの短時間面会も実施している。例年は地域行事にもできるだけ参加できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態を知り、気の合う利用者同士での役割作りや活動を提供している。利用者に不安や戸惑いを与えないように席替えは最小限にしている。気の合う利用者同士が楽しく過ごせるように支援している。		

グループホームおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談はいつでも受けられるようにしている。退所時には必要な情報を提供し、今後の連絡や話し合いを行い、細かな連携に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いを知り、ケアに取り組んでいる。意思疎通の難しい方は表情などから気持ちを汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者の方からこれまでの情報を聞き、アセスメントシートを作り、職員への情報提供をしている。生活の中で本人との交流を図りながら思いを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のできる事を日々、行ってもらっている。状態に合わせて活動量を調整したり、休憩を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり本人・家族の要望をできる限り反映できるよう職員で意見交換やモニタリング、アセスメントを行っている。状態が変化した場合の見直しを行い、今の本人に最も必要な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、日々の様子や状態を気づきノート、ケース記録に記録している。新しい情報も職員全員が把握できるよう情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じて、施設での通院の送迎、介助を行っている。本人と一緒に買い物に行ったり、近隣の美容院・理髪店の協力を得て、訪問理容を利用している。		

グループホームおおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容の活用、地元保育園児との交流、盆踊りに参加してもらっている。広報誌を地域関係者に配布し緊急時の協力を得られるようにしている。運営推進会議では民生委員・警察・市役所の職員等、参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に本人・家族と希望のかかりつけ医を決め、入所後は施設の職員が協力して通院や緊急時の対応を行っている。状態に応じて協力病院でも治療が受けられるよう連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の日頃の状態や変化を観察し看護職員に伝えている。急変時の対応、家族やかかりつけ医との連絡を速やかに行い、適切な支援行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう情報を病院へ提供している。介護者が頻回に面会に行き、医師や看護師等から情報を聞いている。退院時カンファレンスに参加し、退院の準備や退院後の留意点、リハビリ等の相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期のケアについて当施設で対応できる内容について家族に説明を行っている。看取りマニュアルを作成し、家族・かかりつけ医と連絡を取りながら安心して納得した最期を迎えられるよう対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。職員の全員が救急救命の講習を受けており、急変時の対応ができるようにしている。AEDや吸引器等も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年2回、火災避難訓練、消火訓練を実施している。風水害の避難訓練も年1回実施している。近隣の消防団の協力も得ている。緊急連絡網の作成や非常食、飲み物の備蓄も行っている。		

グループホームおおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝のミーティング、全体会議、高齢者虐待防止委員会の会議等で話し合い、利用者のプライバシーを守る対応を徹底している。不適切なケアと思われる時は職員同士で注意し合っている。必要に応じて、情報の開示を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との話の中で好きな物、昔行っていたことを聞き、役割や活動に取り入れるようにしている。物事を行う時は、必ず利用者に説明を行い目的を知ってもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気づきノートの活用や申し送りを聞いて、その日の利用者の状態を知り体調や気持ちを考えながらその人のペースで生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは職員が本人の要望を聞きながら一緒に選び、本人が納得したものを着てもらっている。自分で選ぶことが困難な方には好みを思い出しながら職員が提供している。理美容は近くの馴染みのお店にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで採れた季節の野菜を利用して、利用者にはできる範囲で食事作りの協力をしてもらっている。おやつ作りも利用者と一緒に作ることで楽しさを持ってもらうようにしている。食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなどもしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態にあった食事の提供(キザミ、トロミ等)を行っている。料理によっては本人の希望を聞き対応している。食事量、水分量を記録して職員間で共有している。体調により食事摂取量が少ない時は栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に歯磨きを促し見守りや介助を行っている。口腔内の状態を観察し、その方に合った歯ブラシや歯磨き剤を使用している。夕食後の歯磨きの後、義歯を使われている方は、外してもらい洗浄を行っている。口腔ケア等の研修に積極的に参加している。		

グループホームおおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の日頃の排泄パターンや動作を排泄チェック表をもとに把握しトイレ誘導をしている。毎食後、時間での誘導を行っている。排泄中の見守りの際はバスタオル等で前を隠すなどプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維質の多い食材の提供をしている。便秘傾向の方には起床時の牛乳やオリゴ糖を提供している。腹部マッサージや廊下歩行、散歩等の運動も取り入れている。おやつにフルーツや野菜を使ってできるだけ食べていただけるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる準備をしている。希望の時間により入られる方もいる。体調や状態によっては清拭、足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターン、希望に配慮した支援を行っている。昼間の活動を増やし日中の居眠り、夜間の不眠の防止に心がけている。年齢や体調に配慮して午後の昼寝の時間も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をケース記録に整理し職員が、薬の目的や副作用を把握できるようにしている。服薬時は手渡す・介助する等服薬の確認を行い。何かあればかかりつけ医、看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴、背景等の情報を知り、畑、食事作りやおやつ作り洗濯物を干したり、たたんだり等各自が役割の持てる支援を行っている。地域の行事にも参加するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より施設はしていない。いつでも利用者の意思で出掛けられるようにしている。利用者の希望でいつでも散歩や野菜の収穫、行事での外出や買い物ドライブ等もやっている。		

グループホームおたの郷(しらかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣やお祭り、ドライブに出かけた際、お賽銭、ジュース等希望された場合に本人にお金を手渡し、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で話したいと希望された場合、職員がかけてあげ、話ができるようにしている。利用者に届いた手紙を渡し読んでもらったり、手元に置いていつでも見れるようにしてる。職員からは年賀状の交換を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横には大きなソファを置き、外を眺められたり、体操や談話が行われている。ウッドデッキにて外気浴をしたり、季節にあった絵や飾り付けを利用者と一緒に行っている。廊下の壁に毎月の様子の写真を貼り、利用者や面会者がいつでも見れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エントランスやラウンジに椅子を置き、外が眺められ、学校の子供さんや畑を見て過ごすことのできるスペースがある。テーブルに着いている時は状況に応じ、仕切りを使ってプライバシーを守れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が工作された物や家族や施設での写真を居室に貼り、職員と本人が共同で作った作品等を飾り、あたたかい雰囲気作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、各所に手すりがあり歩行や移動、移乗動作が安全に出来るように配慮している。活動性を維持するために、個々に応じた歩行器などを使用し、安全性の確保と自立支援をしている。		